

ですが二度ども、見んごと、落第らくだいしましたんで…尤もつとも無理むりかも知れないんですが、矢張やばり勉強べんきやうが足りないのです。今度こんどは何なんでも及第きやうだいしたいんですが、またやり損そとふかも知れません。」

嗚呼あゝ、こも亦また、眞しんの車夫しやふにてはあらぬなり。身みの述じゆ懐くわいを談かたりながら韋駄いだ天てんの如ごとく驅かけ過ぎて早くも、定めまたの場所ばしょに來きたりぬ。さればとて約束やくそくの金かねに少し許ゆるりを添そへて、渡わたせば、數度あまた禮らいを述べた楫か棒ぼう取とり上げて、神かみ田だの方ほうへと歸かへり行きぬ。吾われは無量むりやうの感かんに打うたれて、其その後影うしろかげを見送みおくりながら、暫しばしは、其場そのばに衝立つたちつ。(未完)

新年の御歌

雪 中 竹

御製

この上にいくへふりそふ雪ならむ

たかびら高くなりせむりつゝ、

皇后宮御歌

よの程のわらしはたえてくれ竹の

雪しつかにもあくるそらかな

東宮御歌

ふりつもるまかきの竹のしら雪に

世のさむけさを思ひこそやれ

東宮妃御歌

かさりなき君かちとせもこもるらむ

竹のはやみにふれるはつ雪

子らの遊び

東くめ

浪よりあくる

朝日かけ

魚やつらむと

蟹かにの子が、

浦うらの苦屋くまを

起き出いでて、

友ともよびかはし

急いそぐなり。

* * * * *